

令和5年度取組状況

ものづくり工学科

一般科目

教授

高橋龍也

取 組 状 況	
教育	1. これまでと同様作成したワークシートとして配布し授業に活用。特に本年度は昨年度より演習不足が検討課題となっていたので定期試験前の模擬課題による復習の機会を増やした、さらに、昨年度のアンケート集計結果より定期試験前に配信するテキストの完成版の配信時期や時間等を検討した。試験直前での配信より授業終了に合わせた配信により効果を期待した。全体の教育効果は大きくは効果が見られなかったが、中間成績層の理解の底上げが見られた。(1学年、2学年) 2. 4学年の選択授業においては、昨年度同様に授業内容を実践的な内容に変更することは継続的に取り組み、実験内容をより授業内容に近い教材を採択することによって、履修学生の参加意欲と実践力の育成を目的に授業を行った。
研究	1. 4学年の実験教材として扱ったものをその導入や教育効果についてまとめた。(紀要:”薄層クロマトグラフィーを用いた反応進行と物質同定実験の授業導入検討”○豊島雅幸、高橋龍也、2023年度産技高専紀要18、accept)また、3学年の学生有志による研究成果を実験教材として検討したことをまとめ発表した。;○高橋龍也、豊島雅幸、野澤 賢、二星聖英、伊藤 凧、岡 宏樹、後藤詩歩、日本化学会第104回春季大会、ポスター発表(P1-3am-20)、2024) 2. 残念ながら4学年の授業内容に導入予定であった”電気泳動”は授業内容に近い教材を採択することにより見送り、授業内容に沿った高分子合成実験(吸水性高分子合成、ナイロン合成)の内容となった。
社会貢献	1. 日本学術振興会 審査委員登録更新